

令和2年度 第4回指導力向上支援・判定会議会議要旨

- 1 日 時 令和3年3月15日（月）13時28分～14時25分
- 2 場 所 大阪市役所3階 教育委員会事務局内教育委員室
- 3 出席者 （委員）
森委員長・八田委員・高橋委員・沼守委員・藤田委員・宮崎委員
（事務局）
井内教務部教職員資質向上担当課長・三枝首席指導主事・安部首席指導主事・菅教務部担当係長・塩田教育センター総括指導主事・武林指導員・蓮尾指導員・早川指導員・平川係員
（事務局側一部出席者はwebでの参加）
- 4 議事要旨 指導が不適切である状態が改善された教員として、当該教員に対する措置については、在籍校への復帰が妥当であるという意見となった。
- 5 主な発言内容
 - ・第三次研修前後で大きな伸びがあった。自己肯定感が高まり、自信を持てたことで伸びが見られたと思われる。得意な絵を活用して授業を成立させ、手ごたえを感じた様子があった。
 - ・大きく見て三点のポイントがあった。一点目、公教育の担い手としての意識をもつことができるようになったこと。二点目、課題に正対することができたこと。三点目、現場教職員の協力、関わりにより、当該教諭の成長がさらに促されたことである。
 - ・人生のキャリアと教職をリンクして考えることができた。自分で納得した上で、自ら進んで研修に取り組むことができた。自分の課題を認知するということもできた。
 - ・当該教諭との信頼関係の構築を目指した指導員の成果もある。
 - ・研修で改善された部分を現場でより活かすためにも、復帰後のアフターフォローを検討していく必要がある。最終的にはそのフォローも必要なくなるのが理想である。
 - ・職場内でのサポートも大切である。各々の得意分野を活かしながら、組織の中で教職員どうしが支え合っていく必要がある。助け合い、高めあいながら当該教諭自身が成長していくことが理想である。
 - ・これからは自分がリードしていくという位の意識をもってやっていてもらいたい。周囲に良い影響を与えられるような教員になるという新たな役割を担い、自身の存在意義を感じてほしい。

- ・今回の現場復帰という良い事例を、今後の研修にも活用していく必要がある。できないことを指摘・補足していくことから入るのではなく、今自分は何ができるのかを考え、それを活かして能力を伸ばしていく。その中で苦手を克服、改善していけるような前向きな気持ちで取り組める研修になれば良い。